

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都立北療育医療センター城南分園		
○保護者評価実施期間	令和6年10月7日		～ 令和6年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和6年10月7日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 26名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種それぞれが専門性を活かした支援を行うとともに医療的ケア児への対応ができる。	多職種の良さを活かすために児童発達支援管理責任者が中心となって会議を開催し情報共有や検討を行った上で個別支援計画を作成する。 毎日必ず医師と看護師が健康状態等を確認し、ご家庭での医療ケアの方法について助言を行う。 疾病やケアに関する職員勉強会を定期的に開催する。	令和7年1月に導入した電子カルテ・療育システムにより迅速に、情報を共有していく。
2	大型遊具やプールなど設備が整っている。	令和4年度に園庭の整備を行い、安全に楽しく体を動かす機会をより多く提供できるようにプログラムを組んでいる。 プールは、お子さんが立位で全身つかることのできる深さがあり、陸上ではできない水中ならではの動きにより、リラクゼーションや、自発的な運動等を促している。 水泳療法について講師を招き、保護者向け講習会の実施及び職員向けスキルアップ講習会を実施している。	園庭を活用した交流等について検討する。 希望するお子さんがより参加しやすくなるよう、プール活動への参加要件を緩和する。
3	保護者勉強会による家族支援を行っている。	保護者のアンケート結果をもとに企画を考えている。 参加しやすい時間帯を設定するようにしている。	参加できない保護者への対応方法（オンライン、動画視聴等）を検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や保育園交流への取り組みが十分ではない。	再開に向けて検討はしているが、コロナ禍前に行っていた地域交流、保育園交流の方法ではお子さんや保護者の意向等とは異なるため、年度内の実施に至らなかった。	令和6年10月に再開したボランティアの受け入れについて、さらなる充実を図る。 地域交流、保育園交流については保護者の意向を確認しながら実施方法等を検討する。
2	きょうだい児同士で交流する機会が不十分である。	保育時間が幼稚園、学校等に通っている時間と重なるため、交流の機会を設定しにくい。	学校等がお休みの土日に行事の実施を検討する。 保護者参観については今年度同様、学校等の夏休みなど、きょうだい児が参加しやすい日に設定する。 障害児のきょうだい児に関する学習会等を検討する。
3	保護者のニーズに合ったDXが進んでいない。	令和6年度は電子カルテ等の導入を中心に検討したため、それ以外のDXについては検討が進まなかった。	体制を整えた上で検討に着手する。